

附録 三將軍の御歌

新後拾遺集

身はたぬけの坂山のさねの川を穿てて其の人あり 源頼信
此家百人集

源頼義
千歳集

源義家

河内國古市郡石丸山邊法華寺縁起

史書山皇六十九代後朱雀帝長久元年癸未源頼義公

源頼義公の御歌

源頼義公の御歌

源頼義公の御歌

源頼義公の御歌

源頼義公の御歌

源頼義公の御歌

源頼義公の御歌

源頼義公の御歌

源頼義公の御歌

源頼義公の御歌

源頼義公の御歌

源頼義公の御歌

源頼義公の御歌

六條判官西義公の子孫なり新田是利乃西氏也才三男式
部右輔義國公は未子孫あり是の故に孫倉乃時之國東
叡重乃所判預所と定免座るもの後之に此に當寺ハ
東軍に屯とな皇神紅佛圖兵革乃災不回福なり時之
是利將軍義滿公則ち畠山虎衛心仇基國を尚必乃刺史
一少一神紅佛蓋奇候等元の如く道管給る志あるに是利
義世天下大に乱を天正乃初次叛は三好修理左丈長慶
畠山氏を滅し三好の臣松永彈正之勇右市壺井の民屋
を焚き掃ふ是の時高寺亦災又か皇信田伽藍是く亡ぬ
爰に元禄八年水戸副將軍光國公通法寺壺井に在

實を以てこれ護持院僧派大僧正是の舊社を以て給ひ
杖を具して臨終を奏聞し奉る
憲廟大君進遠乃孝徳運は再興に嚴命をりし事
是に於て西武列川越の城主位下瓦迫潮少將源朝臣
柳沢保明道管は慈愛し泉列岸留乃城主位下員
濃守最原朝臣忠部宣統おして道管に功を助ありて道
管大使長谷川六兵衛尉安定西与右左衛門尉長真大工中井
主水等元禄十二年庚辰の春城を興し同年十一月
歳をす神社佛堂伽藍法橋什具に致し進免を授め
是通法壺井乃良田高式百石寺領に給ふる事成り

赤穂三種



此功徳幽冥不獲かたが日月之光ひかりを合あて文武兼備ぶぶけんび乃運う
ゆく幸しあとて天地てんちと大おほに長久ながくなり奉ほう
 當山鎮守天照皇太后神宮八幡春日乃三社推現すま往昔むかし一夜
 石乃館いしのくわんに奉現ほうげん一損義公いそんぎこう我家わがやにれ功こうを助たすけ
 後のち亦また不な獲た産うを定さだめ一村いっ村氏神うぢがみと家やめ奉ほうり毎歲まいざい六月
 九月十六日くわがつじゅうろくにち夜よ中なか祭まつり礼れいあり嚴げん重じゆうあり三社さんしゃ乃感なりか靈れい永えい
 々々國家こくがを擁護ようご一いっ統とうをたもたれを神かみ皇み六む壽じゆう嶽たけ志しを
 形かたちれ澤さわ作さく家や政せい乃謀まを致いたす者もの志願しげん叶かなハすとりし
 友ともなり一いっ定さだめり

通法寺現任寶實怒謹誌